

認知症になっても安心して暮らせる社会を

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

2024 JUNE

No. 527

6

ぼ～れぼ～れ

ゆっくり やさしく おだやかに



「ぼ～れぼ～れ群馬県支部版」

わたぼうし

No.490

認知症の人と家族の会

理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助け合って、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

巻頭言

「家族支援提言」に期待します

今、認知症の人と家族の会は、「家族支援提言」をまとめることに力を入れています。私は、この試みに大きな期待を寄せている一人です。

まとめるにあたって、4つの指針が提案されています。

【指針1】介護者に情報を提供し、相談の機会を設ける

【指針2】介護者を尊重する。介護者の人権を保障する。

【指針3】介護者を支え援助する

【指針4】支援付き意思決定

介護者が、身体的な負担や時間的な制約から解放される道を、ぜひ提示していただきたいと希望します。また、それでもなお残る心の負担を軽減するための、決して精神論ではないピアサポートの在り方を、さすが「家族の会」と思わせるような具体策としてまとめあげていただくことを期待しています。

最近、中島みゆきさんの歌「地上の星」の“地上の星”とは、介護家族のことを指しているように聞こえて仕方がありません。

もっと介護家族を見てほしいと切に思うのです。

目次

・巻頭言

「家族支援提言」に期待します

・5月26日 群馬県支部総会を開催

・6月8、9日 「家族の会」本部

総会、支部交流・分科会を開催

・へわが家の認知症ケア手帳^{④9}

渡辺医院院長（当会顧問） 渡辺俊之

・編集後記

1頁

2頁

3頁

4頁

4頁

4頁

これからの予定

● 7月13日（土）伊勢崎つどい

10時～12時 伊勢崎市文化会館

● 7月14日（日）渋川つどい

10時～12時 渋川市中央公民館

● 7月20日（土）館林つどい

10時～12時 館林市中部公民館

● 7月28日（日）県央つどい

10時～12時 県社会福祉総合センター

7階 701会議室

電話相談

◎群馬県支部（群馬県からの委託事業）
認知症の人と家族のための電話相談

027（289）2740

◎本部フリーダイヤル

0120（294）456

X(旧 Twitter)

やっています



5月26日 群馬県支部総会を開催

活動報告・決算・計画・予算

まず、代表より2023年度の活動報告を受けました。中心事業である電話相談において件数の減少が見られ、つどの参加者も伸び悩んでいることから、広報のあり方を工夫し、いつそう周知に努める必要性を確認しあいました。

決算については、石田佳一郎監事の監査報告を受けた上で承認されました。昨年度、会費収入以外の財源は、県の電話相談(つどい含む)事業委



託費、群馬県社協の補助金、本部の支部活動支援資金等により、ほぼ同様の繰り越しで新年度を迎えられました。2024年度の活動計画、予算においても新規の事業よりも、基本的な事業である電話相談、つどいの活性化のために、有効に予算を使うことが求められます。

その考えに基づいた活動計画・予算が承認されました。(決算書は左記のとおりです。)

新役員体制の承認

長く、代表田部井康夫、副代表恩田初男、島村まつ代の体制で臨んできた群馬県支部でしたが、島村副代表から健康上の理由で退任の申し出を受けており、今年度この申し出を受け入れることとしました。これを受けて、山口怜生世話人より「副代表二人体制が望ましい状況であり、家族の会にもっと寄与したい気持ちがある」と申し出がありました。これを受けて、今総会に就任案を提案し、山口世話人を副代表に選任することが承認されました。また、新年度が始まって間もなく、3

名の方を世話人として推薦したいとの声があり、いずれもすっかりした方々で、異論はなく、承認されました。まことに力強い限りです。

本部総会代議員の選任

群馬県支部は、定款により本部総会出席代議員が3名と定められています。立候補者が不在の場合、民主的に支部総会に於いて選任する事とされています。立候補がなかったため、田部井、恩田、笹谷の3世話人を推薦し承認されました。

Table with financial data for '公益社団法人認知症の人と家族の会群馬県支部 2023年度決算書'. It lists income and expense sections with various sub-items and their corresponding amounts in Japanese Yen.

上記の通り、相違ないことを証します。

2024年4月13日

監事 石田佳一郎 (Signature)

認知症の人と家族の会 総会・交流会開催 於京都
6月8日(土) 通算第45回総会開催
6月9日(日) 支部交流会・分科会開催



群馬県支部からは、総会に代議員 3名(現地参加 田部井、恩田代議員、オンライン参加 笹谷代議員)が、支部交流会には恩田副代表が、
 第2分科会「認知症基本法と当事者参画」に参加しました。
 以下、その報告をいただきました。

第15回家族の会総会に出席して

世話人 笹谷 朋弘



6月8日(土)に2024年度の総会にオンライン参加してきました。総会では昨年度の事業の振り返り、今年度の事業計画などについて報告され、また総会後は「介護保険制度のいまとこれから」という内容で勉強会も開催されました。

昨年度も全国総会に参加させて頂きましたが、総会には独特な緊張感があります。それは総会の際は各支部から家族の会に関する悩み事などを共有する場であると思うからです。各部門から提案後に各支部から質問する時間が設けられます。その質問の中で「支部の家族の会が継続的に活動できる体制づくりはどうすればよいか」「認知症カフェなど様々な集まりが多く開催されているが、家

族の会としてのつどいはどのような形、方向性で行う必要があるのか」など各支部が危機感をもって本部へ質問している場面が印象的でした。各支部からの質問に対する鎌田代表の回答も印象的で「新たな支援の枠組み(認知症カフェなど)がある中で、参加する家族介護者の方や本人が居心地よく参加しやすいと感じられる場所に参加できることが大事。本人や介護者が選べるのが大事だ」という回答をされていました。

認知症基本法などの新たな動きの中で、認知症に関する捉え方や、支える環境なども変動していきます。それに伴い家族の会が大切にしていく「介護家族の支援」といった側面

が少し希薄になっていく可能性もあります。家族の会として基本的な軸は変化しないにせよ、組織(各支部)として考え方の枠組みや物事の捉え方に関して柔軟に考え対応していくことも
 今後必要なのかとも思いました。家族の会を継続していく上で考えていく点が多くありますが、今後も世話人の1人とし協力していきたいなど総会を通して改めて思いました。

〈総会で、行方不明者捜索に協力の訴え〉

この人を探しています

あらかわ やすこ
名前 荒川泰子
年齢 当時 59
身長 155cm

当時はボーダーの服を着用
 若年性認知症で受け答えに難あり

令和5年8月8日の朝、米子市の自宅から行方不明。

これまでの目撃情報

- 令和5年8月8日 米子から安来の国道9号沿いを歩いていた
- 令和5年8月11日 特徴の似ている人が松江市内の国道9号の車道を歩いていた

目撃情報は 米子警察署
0859-33-0110
 見かけたら「荒川泰子さんですか?」と呼びかけをお願いします

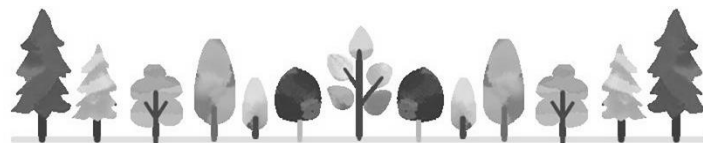
令和5年8月8日(火)以降、米子市から松江市方面の道路(おもに国道9号)で、ご自宅・事業所等の防犯カメラや車にドライブレコーダーを搭載している方の情報提供をお願いします。
 X(旧Twitter) @arakawa_tsutomu でも受付

(鳥取県支部会員の荒川勉さんが行方不明の妻、泰子さんを探しています。情報の提供にご協力ください。)

2024年度 支部交流会・分科会に参加して

副代表 恩田初男

今回の分科会では第II分科会「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」(以下、「認知症基本法」) 別れグループワークを行いました。に参加させて頂きました。この第II



渡辺俊之の「わが家の認知症ケア手帳」④
ポジティブ感情で介護

渡辺医院院長（精神科医、当会顧問） 渡辺俊之



会員の A さんは、80 代の妻が、認知症が進行して施設に入りました。寂しそうな表情で「先生、これから何をやったらいいのかわかんないよ」と言う A さんに、思い出や趣味のカメラの話聞きませす。介護者の役割以外で、本人のアイデンティティーを支えようと思ったのです。

「ポジティブ心理学」の介護への応用として、今回は「没頭 (Engage)」について述べましょう。

私の外来に来ている介護者の方の中には、過去のことがかり考えて落ち込んだり、将来の不安が襲ってきたりして眠れなくなる、といった人がいます。介護が一段落した人がこうした状況に陥ることが多い気がします。献身的に親や配偶者の介護に没頭する人にとって、考えるのは今日のことばかりでしょう。毎日の介護の役割をこなすことで精いっぱいなのです。

ところが、要介護者が施設に入所したり、他界したりすると、心のバランスが乱れてしまいます。「忙しさへの

逃避」「不安は未来からやって来る」「後悔は過去からやって来る」という言葉を私はよく使います。要するに、やるべきことが目の前にあり、没頭できるところが悩まないのです。没頭した対象を失った時に注意が必要です。認知症介護が施設入所や他界などで終わる時に備えて、介護者が「常に没頭できること」を家族で話し合うことも大切です。介護が終わることは介護者にとって喪失体験です。でもそれは、介護者から離れ、かつての自分や本来の自分に戻るチャンスでもあるのです。



わたしの参加したグループは7名でしたが、石川県から参加し、能登地震で被災した方がおり、地震後の生活での困った事を聞かせてもらいました。自己紹介後、設定された4つのテーマからテーマC「暮らしの中での患者・家族参画への期待（移動や安全、買い物など）」を選択し、話し合いが進みました。

・家族参画では、「認知症基本法」が2023年度に施行されたことから、国レベルで基本計画の策定が始まっているとの事。都道府県及び市町村での計画策定は努力義務である事から積極的に計画策定を進めてほしい事、また計画策定に家族の会が参加させてもらう事を都道府県や市町村に話していくことが必要と話し合いました。

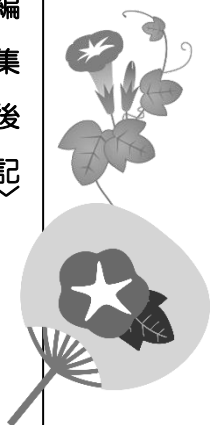
・移動では、「近所や福祉有償運送の移動手段は、徐々に進んできているが移動だけではなく一緒に受診や買い物等の見守りが必要である」との意見がありました。

・買い物では前日6月8日に民放テレビで「スローレジ」に関する放送があり、「スローレジ」を広めるにはどうしたらよいか話し合いました。

・前日の総会で認知症で行方不明になる人が年々増加しており、2022年は所在未確認28名・死亡491名ある事が報告され話題となりました。認知症の人を理解してくれる人が沢山必要なので、認知症サポーター養成講座を積極的に進めることが必要であることが話し合われました。

編集後記

早くも猛暑日と言ってもいいような暑さが続きます。そうでなくとも体力の衰えが目立つ私などには慣れない暑さは禁物です。皆さまも、くれぐれもご用心、ご自愛のほどね。



(田部井)

2024 年度世界アルツハイマーデー
(認知症の日)
標語 決定!
共に生き ともに歩もう 認知症
(岡山県支部会員 安藤孝子さん作品)